



ウガンダ北部アムル県における子どもや保護者を対象にした 保健と衛生事業（2年次） 経過報告書

日頃よりセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動へご理解・ご支援をいただき、誠に有難うございます。「アラウ.de 書き込み募金」からのご寄付は、ウガンダ北部アムル県の親や子どもを対象とした保健事業に活用させていただいております。2011年7月から開始された事業2年目の、昨年12月末時点での途中経過を以下にご報告致します。

1. 事業概要

● 事業目標

医療サービスがなかなか届かないウガンダ北部のアムル県において、子どもの病気の対処法や予防法についてコミュニティの知識向上を図ることで、子どもの死亡率を低下させることを目指しています。具体的には、妊産婦および新生児の適切なケアに関する意識向上、予防接種の普及、栄養教育、衛生教育などに取り組むことで、保健・衛生に関する意識啓発を行い、子どもたちの健康をサポートしています。

● 事業地

ウガンダ共和国アムル県（スーダンとの国境近く）

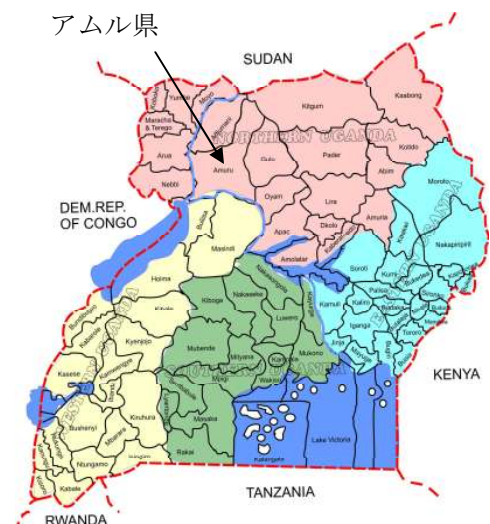
● 事業実施期間：2011年7月1日～2012年6月30日

● 報告対象期間：2011年7月1日～2011年12月31日

2. 事業背景

- 22年に及ぶ内戦が終結した2006年にアムル県はグル県が分割されてできた新しい県で、紛争により最も深刻な被害を受けた地域の一つです。紛争中、アムル県には多くの国内避難民キャンプが設立されましたが、国内避難民の元の土地への帰還は完了したとされています。

アムル県は道路状況が悪く、大きな町から離れていることもあり、医療サービスがまだ整っていません。看護師/助産師の比率が3,673人に一人、また医師の比率は患者71,433人に一人の割合しかおらず、全国レベルとは大きな隔たりがあります（看護師/助産師は2,870人に一人、医師は患者18,600人あたり一人）。こうした状況は、医療サービスへのアクセス



や、各保健ユニットによる保健活動の実施、そして何より医療の質に影響を及ぼしています。また、医療サービスの不足以外にも、栄養不良、安全ではない水や家庭の内外における衛生環境の悪さが健康被害の原因になっています。

結果、アムル県は他のウガンダ北部の地域と同様、いまだ高い乳幼児死亡率（172 人/1,000 人中）や小児死亡率（250 人/1,000 人）となっており、同国全体の乳幼児死亡率（76 人/1,000 人）および小児死亡率（137 人/1,000 人）と比べても非常に高い値となっています。

セーブ・ザ・チルドレンは、アムル県の子どもの死亡率を低下させるため、包括的なプログラムを実施しています。生計支援事業では、乳幼児および子ども向けの栄養補給剤を各世帯が確保できるよう、貧困世帯を対象に生計手段となるヤギや牛を提供しています。子どもの栄養状態改善のためには、生計手段の確保以外にも、妊娠期や産後の適切なケア、衛生的な環境、病気の予防法や対処法などについて、人々が知識を深め、意識を高めることが必要です。

3. これまでに実施された活動

■ 妊産婦および新生児の適切なケア

- 妊娠時や出産時の合併症により多くの妊婦が命を落とし、新生児破傷風や敗血症、下痢、肺炎などによって多数の新生児が生後数か月で死亡しています。また、出生時仮死や早産も多く、安全とは言えない分娩も行われています。こうした状況を踏まえ、セーブ・ザ・チルドレンは、妊産婦検診の受診率を向上させるためコミュニティの保健師と連携し、妊娠中から産後まで妊産婦が適切なケアを受けられるよう働きかけを行っています。
- 妊産婦および配偶者は、熟練した助産師にかかることの重要性について助言を受けたほか、出生間隔をあけることや母乳育児の必要性、新生児を暖めることの大切さや感染症の予防と対処法について学びました。また、殺虫剤処理済みの蚊帳で新生児を寝かせ、予防接種のスケジュールを守るよう指示を受けました。



産前・産後の新生児ケアについて説明をするスタッフ（Alero 準郡の診療所）

■ 定期予防接種普及の支援

- アムル県における乳幼児死亡率の低下をめざすため、セーブ・ザ・チルドレンは、県の衛生局および村の保健チームを含む保健ユニットと予防接種の普及について連携してきました。定期的な予防接種の支援活動のほか、4 月と 10 月の子ども保健デーには予防接種キャンペーンを実施し、予防接種を受けるようコミュニティを動員、また、保健チームに対して物流支援を行

いました。その結果、1,263 人の子どもの予防接種と 1,937 人の子どもの寄生虫駆除を実施、そして 1,043 人の子どもにビタミン A の栄養補助剤を配布しました。



予防接種を受ける子どもたち（Alero 準郡の Langol 村）

■ 乳幼児の栄養に関する理解向上と子どもの栄養補給支援

- 子どもの発育に深刻な影響を及ぼす栄養失調を軽減するため、授乳中の母親を対象に完全母乳育児の推進活動を行い、生後 6 か月までは完全母乳育児、その後 7 か月目からは栄養価の高い食べ物を衛生的にすりつぶしたもの、もしくは半固体状のものを与えることで、栄養失調の予防や発育状態の改善が期待でき、子どもの生命を救うことになることを伝えました。また、子どもの成長・発達に必要な微量栄養剤を配布しました。この活動には計 1,392 人（男性 572 名、女性 820 名）が参加し、乳幼児の栄養について理解を深めました。



子どもの健康、栄養ある食事や衛生についての保健教育（Alero 準郡の診療所）

■ 感染症や下痢、マラリアを予防するための衛生教育および衛生管理

- コミュニティを対象に衛生教育を実施し、各家庭や学校に向けて衛生面での重要事項や実践方法を説明しました。この衛生教育は、安全な水へのアクセスや衛生状況の改善、個々人や食品の衛生管理の向上、また、感染症がどのように拡大するかを知ってもらうことで、下痢などの症状を減少させることをねらいとしています。この衛生教育の集会には、計 1,254 人（男性 523 名、女性 731 名）が参加しました。
- 下痢になってしまった場合は、経口補水塩(Oral Rehydration Solution=ORS)によって命を救うことができることも知ってもらうよう働きかけています。村の保健チームからの報告をまとめたところによると、下痢などの症状のため子ども用の抗生物質や経口補水塩（ORS）を提供してほしいといった要望や、保健ユニットで病状の経過を見て欲しいといった要望が 230 人の

妊産婦から寄せられました。経口補水塩（ORS）を資金的に購入することができない家庭の場合は、保健師と協力し、清潔で安全な水に砂糖と塩を加えたものを代用することで費用を抑えるようにしています。

- 学校では、1,415 人の生徒および教員 74 人（計 4 校）に対して定期的な健康診断および衛生検査を実施しました。学校内のゴミ捨て場の視察も行い、適切なゴミ処理ができるよう新たなゴミ捨て場を作るよう勧めました。2011 年の終わりに再度視察を行ったところ、ゴミ捨て場が各校に設置されていることが確認されました。



水源が家庭での使用に適しているかを調べているコミュニティ・リーダー

4. 今後の活動

アムル県の行政が資金難のため、医療施設の増加と質の向上に向けた取り組みはなかなか進んでいません。通える距離に保健ユニットがないことや、遠隔地の保健ユニットにおけるスタッフ不足、医薬品の不足といった現状は、子どもに深刻な影響を与えています。しかし、村の保健チームのメンバーであるコミュニティの保健師は、村内で割り当てられた自分の担当区の妊産婦や子どもたちの個別ケースを把握・対応するなど、成果を上げています。また、人々が病気の予防法や対処法について知識を高めることは、病気の予防、早期発見や早期対処につながっています。子どもの死亡率低下のため、セーブ・ザ・チルドレンは 2012 年も引き続き、ウガンダの子どもの生存と発達、成長を支援していきます。

今後とも温かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

以上